

中学校で研修会を開催した。生徒の視覚に訴える効果的な指導法について研修を重ねているところであるが、ICT機器を使用することだけが本来の目的ではないので、活用方法と教育的効果については今後も検証していきたい。

**問** 本市には、ICTの研究校はあるのか。

**答** ICT機器等に特化した指定研究校はないが、重要な課題であるので、各校ともICT教育には積極的に取り組んでいる。平成27年度には畝傍南小学校で全国統計・情報教育の研究大会が開催され、統計情報教育に視点を置いた取り組みの公開授業や研究討議が行われる予定である。

**問** 教育長の考えを聞きたい。

**答** 教育委員会としては、施設整備、いじめ対策、支援を要する子どもへの対応を重点的に考えていきたい。ICTも重要であり、子どもの発達段階に応じて、それらに接するような体制をとっていかなければならない。

**問** 市長の考えを聞きたい。

取り組んできた。子どもたちに良い大人になってもらうための環境づくりが、教育問題の中で一番大切なことだと思う。その中で、子どもが成長していく環境が、それぞれの家庭によってかなり温度差が出てきている現状を感じている。子どもたちのために何とか良い教育を施したいという思いは、いつも頭の片隅にある。今後、総合教育会議でしっかりと私の考える方向性を伝えていきたい。

**問** 檀原市スポーツ推進計画の中に、「学校のクラブ活動等で、外部指導者を招聘し、子どもがやりたいスポーツができる環境整備を進めます」とある。市としての考えは。

**答** 子どもの基礎体力の向上及びスポーツ環境の充実、そして担当教諭の負担軽減や専門性の両立を図るなど、時としては外部指導者の参入も必要であると思う。具体的には、クラブ活動や体育授業のサポートといった専門的な指導が必要とされる分野においては、教育委員会、学校現場と連携の上、必要に応じて派遣を行う。また講師派遣は、民間の経験者や資格取得者に依頼す

ることも含めて、(公社)檀原市スポーツ協会や檀原市スポーツ推進委員と調整していきたい。現在、市内のNPO法人が文部科学省の支援のもと、小学校体育活動支援事業を期限付きではあるが、展開している。民間団体との連携についても、現在はモデルケースではあるが、将来的には広く継続できる施策を教育委員会と模索していきたい。また市民文化部としても、小学校におけるスポーツ能力の向上を図るために、投げる・跳ぶ・走るの基本動作を身に付けられるようにキッズヘキサスロンの導入を行い、平成26年度は市内4校で実施した。次年度以降、順次すべての小学校に導入していきたい。こうした取り組みをきっかけに学校現場における、民間活力の導入など、可能性を探りながら、あわせて指導内容の充実を図り、子どもたちの健全育成、スポーツ能力の向上につながる施策を教育委員会と学校現場と密接な連携のもと、進めていきたい。



檀原市スポーツ推進計画

一般質問  
**大保由香子**  
(檀原未来)

防  
災  
訓  
練

**問** 本市内に指定避難所は何か所あるか。

**答** 小中学校、地区公民館などの公共施設42カ所と県立畝傍高校、檀原高校の各体育館の合計44カ所である。

**問** 1つの避難所に何人が避難できるのか。

**答** 畳1畳分、約1.65平米を1名分の避難スペースと考えており、全44カ所の指定避難所に収容できる避難者数は2万7,674名となる。

ただ、災害規模や状況によってこの定員以上に収容する場合も考えられるので、臨機応変な対応が求められる。

**問** 自分が避難する場所はどこ

こであるかということや市民にどう周知しているか。

**答** ホームページ、ハザードマップへの記載、出前講座などの機会にも周知している。また、各避難所の周辺の主要道路には最寄りの避難所への案内看板を設置している。

**問** 日頃から家庭で防災に対する意識を高めておけば、いざというときに焦ったり、パニックになったりしないのではないかと思うが、どのような避難訓練をしているか。

**答** 平成26年2月に関係職員を対象に避難所開設訓練を実施した。また自主防災組織や自治会では、平常時からさまざまな訓練、知識の習得を実施している。避難所を活用した総合的な防災訓練として、避難誘導訓練、消火訓練、炊き出し訓練、AED訓練、情報収集・伝達訓練を実施している地域や、避難所訓練と合わせて住民による避難所の開設、運営訓練を実施している地域もあり、危機管理課も助言等を行っている。平成25年にかしはら安心パークがオープンし、消火訓練やAED訓練、煙体験、講座等を実施できることから充実した内容の